

令和4年2月 3日

保護者様

アソカ幼稚園長 小林 淳一

## 令和3年度 アソカ幼稚園 「園評価」結果及び保護者感想報告

寒冷の候、日頃より本園教育にご支援・ご協力をいただきまして、感謝申し上げます。さて、令和3年度園評価・保護者アンケート感想のご提出ありがとうございます。つきましては、結果をご報告させていただきます。皆様から頂戴した結果や感想を来年度の園の教育に活かしていきたいと思っております。

### 1 対象者内容

対象者	人数	回答数	回答率	実施期間
教職員	20名	20名	100%	令和3年12月2日～ 12月10日
全保護者	園児数106名 (世帯数101名)	73名	73%	令和4年1月 8日～ 1月24日

### 1 教職員 自己評価

A 十分 B おおむね C ちょっと足りない D できていない E 評価できない

#### 【I 教育目標・教育方針・教育課程・指導計画】

		A%	B%	C%	D%	E%
1	園の教育目標(いのちを大切にすることを子供たちのなかに生かそうとしている。	55	35	10	0	0
2	月・日教育計画案は、幼稚園要領、園の目標や方針をもとに作成している。	55	0	0	0	45

【Ⅱ 教育の内容・方法・教育環境】

1	勉強や遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	30	40	10	0	20
2	子どもの発達を考慮し、興味・関心に応じた保育を行っている。	20	60	5	0	15
3	クラスの友達や他学年とのふれあいなどを通して、豊かな人間関係を育てている。	30	40	15	0	
4	一日の生活がより豊かになるよう(手洗い、排泄、あいさつ、片付け、クツそろえ)の基本的な生活習慣を指導している。	40	50	0	0	10

【Ⅲ 教師の役割・資質向上】

1	一人ひとりを大切にしたい教育を心がけている。	45	55	0	0	0
2	保護者に子供の様子を話したり、クラス通信などで知らせたりして連携をとっている。	25	50	10	0	15
3	研修会などに進んで参加したり、自ら学んだりして教師力を高める努力をしている。	25	40	25	5	5

【Ⅳ 運営管理】

1	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	70	30	0	0	0
2	個人情報等の管理は間違いのないように行っている。	65	20	5	0	10
3	他の職員と互いに認め合い、協力して仕事に取り組んでいる。	70	30	0	0	0

## 2 保護者評価

A 十分 B おおむね C ちょっと足りない D できていない E わからない

		A%	B%	C%	D%	E%
1	「いのち 共に生き共に育ちあう」という教育方針のもと、日々の教育が行われていると感じる。	69	30	0	0	1
2	一人一人を大切にした指導が行われている。	44	48	7	0	0
3	子どもの発達を考慮し、興味・関心に応じた保育が行われている。	47	46	7	0	0
4	クラスの友達や他学年とのふれあいなどを通して、豊かな人間関係を育てている。	69	29	1	0	1
5	園だよりやクラス通信・ホームページなどを通して、幼稚園の情報を、適切に伝えている。	68	29	3	0	0
6	園内や教室の環境・安全整備や美化に努めている。	66	29	2	0	2
7	居心地のよい預かり保育(クジラ組)が実施されている。	50	21	9	0	27
8	コロナについての対策や対応が適切である。	54	39	9	0	0
9	幼稚園(教職員)の保護者への対応は適切である。	57	40	3	0	0

### 3 保護者感想★一部抜粋

#### 〇年長組

・3年間の半分以上がコロナ禍だったが、今年度の劇遊び発表会ではきく組全員の努力と個性と成長が見られ、我が子でなくても涙が出る、素晴らしいものだった。お迎えの時に園での様子を聞くことが出来、親子共々支えてもらった。お陰様で娘も自分で考え、行動し、言葉で思いを伝えることが少しずつ出来る様になり、成長したなど感じた。その他も皆の前で発言、発表すること、皆で話し合いをして決めること、皆で協力して一つのことをやり遂げるなど、個性の多様な集団生活のなかで、家庭では出来ない経験をして娘個人の主張性や協調性が少しずつ身についてきたなど感じた。大勢いるなかでも一括りにせず個人に合った接し方をしてもらった。

・年少の頃はわがままばかりの我が子の扱いにくさと自分の不甲斐なさに泣いてしまったこともあったが、あの頃の自分に「みんな違ってみんな良いんだよ」と伝えたい。子どもの様子が描いてある〇〇通信や、どんぐりクラス卒業の時にもらった写真のコラージュは宝物だ。シーパラの一日お楽しみ保育もコロナ対策で大変な中、こんなにしてくれるとは思っていなかった。とても嬉しかった。アソカ幼稚園に決めた理由の一つに夏休み寺子屋塾があって、卒園後もお友達に会えるかもしれないと思った、というのがあった。まだ難しいと思うが、沢山の行事がコロナ収束後に復活出来ることを祈る。

・コロナ禍の中で運動会・劇遊び発表会・最後に月のうさぎと、子どもの成長を感じることが出来る行事に取り組んでいることに感謝する。また、アプリ導入はとても助かっている。なかなか日々の慌ただしいなかで連絡帳をチェックするのを怠ってしまうためアプリで色々な連絡を取れるようになるともっと助かる。

・今年もまたコロナと共存の最終学年になるなど思いスタートしたが、何度も動物園探検隊に行ったり、シーパラの特別保育をやったり、限られた状況の中で最大限の活動をしてもらえて感謝している。半日であっても親子遠足など、お友達との関わりを目にする参観がなかったので、ちゃんと子ども同士関わっていることを知る機会になれてよかった。劇遊び発表会では、幼稚園でオペラをするなんて、どうなるんだろうという思いもあったが、子どもがオペラを知り「魔笛」の世界や歌を知るといってとてもいい経験になった。家にあった「魔笛」のDVDを幼稚園のこの時に娘と一緒に見ることができ、これからも興味の幅が広がりそうで楽しみだ。色々な視野を広げてもらえる体験が出来たことは子どもの財産になると思う。

・本年度からくじら組も利用し子供も楽しんでくれて助かっている。劇遊び発表

会では、運動会に続き、クラス全体のさらなる成長を感じた。衣装のクオリティも高く、子どもたちのテンションも上がったのではないかなと思う。劇遊びもプロの方にビデオ撮影があると観ることに集中できて有難い。

○この一年もコロナに見舞われた一年だったが、子どもは楽しく最後の幼稚園生活を送れたようだ。入園した当初は、毎朝泣いていた子が今ではお友達と会うのを楽しみにしている姿に成長を感じる。母親が仕事をしていて毎日お迎えが遅いのに、とても頑張ってくれたと思う。

・年長さんになり、園内では一番上のお姉さんになるということでもとても張り切っていたことを思い出す。運動会や劇遊び発表会では与えられた役割をしっかりとやり切る姿を見ることができ、より成長した一年であったと思う。個人面談の際、先生のお手伝いを頑張っていること、自分の思いをお友達や先生に伝えることが出来る様になっていること等、教えてもらい、親としては不安が少し解消された。本堂でお釈迦様の教を教えてもらった時には、必ずその内容を話してくれる。とても大切なことを教えてもらったのだと思っているようだ。くじら組への参加は、夏休みや冬休みだけと少ない日数だったが、自由にやりたいことをさせてもらって、働く親としては本当に有り難い時間だった。園生活も残りわずかだ。今は家でも月のうさぎの歌を歌い、ダンスを踊っている。子どもたちが精一杯月のうさぎを楽しめるよう願っている。

・年長で幼稚園生活最後の年なので、今までよりもっと仲の良いお友達と沢山遊んで思い出を沢山作った一年だったと思う。この一年で自分の考えを自分なりの言葉で伝えるのがだいぶ上手になり、成長を感じる。劇遊び発表会では緊張しながらも自分の役をやり切った達成感を感じている表情、緊張している顔が印象的だった。

・一年通して落ち着いた様子で通うことが出来た。一日にあった出来事をたくさん話してくれるようになり、園での生活を親としても知ることが出来安心している。お友達や先生方との関わりの中で多くのことを学び、経験を重ねながら成長していると思う。劇遊び発表会の「魔笛」ではセリフや動き全てが難しく後ろ向きな発言も多く見られたが、当日の真剣な表情から一生懸命に取り組む姿勢が伝わり、親として胸が熱くなった。本人は無事にやり遂げることが出来達成感を得たようだ。親子共々大切な思い出となった。

・動物園探検隊は目的を持って観察出来ることで沢山の発見をし、子ども自身、とっても楽しんでた。

・2人揃って教室に向かって階段を上っていく姿を見てほっとしつつも少し寂しさも感じていたが、そんな親の気持ちとは、裏腹に毎日楽しく登園している。息子は年長ということもあり運動会、劇遊び発表会などは去年よりも難しい内容になり、練習のことを聞いてもなかなか教えてくれなかったのも、本番、大丈

夫かな？と心配だったが、しっかりと演技している姿を見てとても驚かされた。娘は幼稚園で覚えてきた歌やダンスを毎日披露してくれたり、他のお友達と関わる姿や、先生から園の様子を聞いて成長していると感じることが多かった。

・年中の時より行事が多少とはいえ出来る様になり、息子共々とても嬉しく思っている。運動会で前に出て発表するという大役も親の方が緊張してしまい「大丈夫かしら」と思っていたが、物怖じしないで出来ていたことに成長したんだなあとしみじみ感じた。家ではあまり見ない「しっかりしたお兄ちゃん」の部分が、沢山見られたことはとっても嬉しく感動した。

・私が虫を全く受け付けられないので関わらなかつたが、娘に今年の夏虫取りしようとしてよく誘われた。ちょう、カマキリ、かたつむりを手に取り、「何を食べるかな、飼ってもいい、と聞かれ虫かごに入れしぶしぶ何を食べるのか、環境は何かがいいのか調べることになる。私にとっては虫NGなのに子どもたちは小さな命をしっかり思いやっていた。そうしているうちに、こちらも少しだけ恐怖が薄れた時もあった。

・今まで以上に自分より年下の子の面倒を見られるようになった。弟がいることも理由の一つだと思うが、くじら組の時に年下の子と遊ぶことが多いみたいで色々な話をしてくれる。劇遊び発表会はとても感動した。正直娘があんなにしっかり出来るとは思っていなかったのが驚いた。周りとの協調性、自分を出す積極性、色々な面で成長を実感した。

・本年度もコロナで悩まされる一年だったが、遠足、運動会も縮小という形でやってくれたことに感謝する。運動会のほがらか森では、一生懸命踊る姿にとっても成長を感じた。くじら組ではよく空箱を使って自分の好きなものを作ってくるので想像力豊かになるなーと頼もしく思っている。

・動物園探検隊でテーマ別に観察をすることが、一生懸命出来ていた。

・運動会、劇遊び発表会はとても楽しかったようで良かった。練習が始まって自分の役ではないセリフや歌、踊りも楽しそう嬉しかった。幼稚園後の個人レッスン？もみんな楽しそうでなかなか園生活も見られなかったのが楽しくて成長が見られて嬉しかった。

・まだまだ安心出来ない日々が続いて、行事もなくなったり縮小気味だが本人は友達と遊び一日一日楽しく過ごしているように感じる。年長さんの園外保育、動物園探検隊の帰り道は、その日の発見を楽しそうに話してくれ、日常の保育時間とは違った経験が出来て良かった。運動会は天気にも恵まれ親子でほがらか森にも参加でき、思い出になった。現在は月のうさぎに向けて家でも兄たちのDVDを観て、歌ったり踊ったり…。本番が今から楽しみだ。

## ○年中組

・年中になった四月はお友達とけんかになってしまった時にやり返していたけ

れど、だんだんやり返さないで対応出来る様になったので成長を感じた。

・夜の睡眠が安定してくれたことが嬉しい。毎夜 8:00~8:30 には寝て、朝 6:00 前後に起きている。昼寝がなくなったことが大きいと思うが、十分に体を動かしているのか、自然に疲れて寝ることが何より。リズムの良さは今後本人の財産となる。

・我が子は慣れていない場所等が苦手な運動会もうまく参加出来なかったが、その後の劇遊び発表会では、皆と舞台に上がることが出来、先生たちの指導や保護者との日々の連携で成長をととても感じる一年になった。子どもの園での様子を直接聞くことも出来安心した。本人の自信にも繋がり、園での様子を話してくれるようになった。あと一年、これからの子どもの成長が楽しみだ。

・今年はいじめ組を利用することが多く、いつも遊んでいる子とは違うお友達や、他学年の子とも遊べたようで、交流が出来て良かった。弟が出来たことで家の状況も変わって、幼稚園に行きたくない時もあったが、自分の中で折り合いをつけられる歳になったのか、ある時からいけるようになって、お姉さんになったと思う。

・友だちとの関わり合いが年少の時と比べ上手になってきたと感じる。お友達に対して思いやりが出来る様になった。そんな中でも自分の意思の主張がパワーアップしたところも…、これからどのように成長していくか楽しみだ。

・年少の時にはなかった、対人関係の複雑な心情を持つようになり、今までとは違った子育ての難しさを感じた。それも成長だと分かっているながらも、親としても感情的に接してしまうことがあり反省の日々を過ごしている。そのような子どもたちと毎日沢山遊んでくれる先生たちには本当に感謝しかない。遊ぶ中で色々とルールも学ばせてもらっているみたいだ。印象に残ったことは運動会での「ほがらか森」だ。毎日家で歌って踊って練習していると、いつの間にか弟も覚えていて2人で踊っていたのが面白かった。

・娘は「幼稚園だーいすき」と毎日楽しく通うことが出来ており、親として感謝の気持ちでいっぱいだ。兄の影響もあり、わりと器用に何でもこなす子だと思うが、一方で感情面では年齢相応の面もあるため自分で言い出せず、我慢することもあるので、そういったところも幼稚園の安心・安全な環境で出していけると良いなと思っている。兄(小1)を見ているとアソカで学んだベースはありつつも細やかな記憶は小学校になるとどんどん書き忘れてしまうということ。ただ、先生にほめられた、みんなに認めてもらえたことはいつまでも心に残っている。美智子先生が月別のお誕生日会でお話してくれた「命」の話も強く印象に残っているようだ。これからの保育でも子どもの良いところをたくさん見つけて、それぞれに伝えてもらえたら嬉しく思う。

・コロナでイベントが少なく親としては物足りないなかでも、子どもは毎日楽し

く過ごせたようだ。先生からはいつも子どもの良かった所を報告してくれていたの、安心して通わせることができた。朝行きたくないとごねている時でも先生方が優しく対応してくれているのが有り難かった。

・コロナ禍のなかで感染対策が行われつつ、沢山の行事が開かれ、子どもたちの成長や園での生活を見ることができた。また、幼稚園で学んだことを家でもやりたいという子どもを見て色々な体験をさせてくれているのだなと感じた。

・年少の時はほぼ参加出来なかった運動会は、今年は積極的に参加することができ、劇遊び発表会では、あの難しいセリフを覚えて言えたと先生から聞いて、ずいぶんと成長したんだなと思った。年少の時は決まったお友達としか関わりを持たなかったのに今年度に入ってから、今まで親子の会話に登場したことのない、お友達の名前がフルネームで出てきたりして、社会性が身につけてきたように思う。言葉が遅くコミュニケーション力に乏しいと思っていたので、お友達付き合いがちゃんと出来る様になるのか心配していたが、親の心配をよそに遅く幼稚園生活を送れているようで安心した。この調子で優しく正義感あふれる年長さんになってくれればと思う。

・遠足でみちる先生が考えてくれた、子どもとやる遊びがとても楽しかった。

・年少から振り返ると出来ることが沢山増えたと感じる。言葉や動き方…。一番印象に残っているのは運動会だ。家でも毎日踊り、歌い、本番での姿には成長を感じた。コロナ禍で年少時と同様、行事が全ては行えなかったのは残念だったが、配慮して出来る限りでやってくれたと思う。願わくは最後である年長組では、もっと行事で張り切る子どもたちの姿が見られますように。

・どんぐりさんからお世話になり、本当にあっという間に年中さんになってしまったという印象だ。娘は、私同様マイペースで、周りの子どもたちに比べると大丈夫かなと最初は心配だったが、先生方に優しくフォローしてもらい、安心して任せている。一人っ子のため自宅では娘がどのように小さなお友達に接しているのか分からなかったが、くじらのお迎えの際に小さなお友達が娘の後ろにぴったりくっついて歩いている姿を見て、幼稚園ではお姉さん頑張っているんだなと嬉しく思った。性格がとてもシャイで強がりなため、自分の気持ちを伝えられるようになったのかなと感じている。

・今年度もコロナ禍のなかで、行事や日々の活動に制約があったものの、運動会や劇遊びなど思い出に残るものがあった。本人が一番苦労していると思うが毎日楽しく通うことが出来ているのも、先生方の運営によるものと感じている。来年度は実施出来ない行事を行えるよう願っている。

・入園時と比べると冬制服も小さくなり、子どもの成長を感じる。お弁当を残さず食べてきてくれた。毎日嬉しく思っている。こだわりのふりかけを違うものに変えても食べてくれた。と思っていたが、先生に味が違うと訴えていたのは驚い



た。残さず食べるよう、弁当の時間もしっかりと見てくれて感謝する。このような話は、面談時でしか、ゆっくりと聞けないので私は面談が楽しみだ。また、立ち話で少し美和子先生に子どもの様子を相談した際も、みちる先生にちゃんと伝わっており、気にとめていてくれたことで、とても心強く思った。

・朝の身支度が自分で出来るようになり、家のこともお手伝い出来ることが増えてきた。何よりお友達と遊ぶことが楽しく、幼稚園に早く行きたいと思っていることが嬉しい。誕生会での美智子先生のお話の時に、しっかりと手をあげて発言していたことに驚き、そして色々なことを学んでいるんだなと思った。

・年中になり色々な行事にも年少の時より参加していてすごく成長を感じることができた。自分より下の年齢の子どもたちに優しくしたり遊んだりできるようになったことがとても驚いた。

・みちる先生始め、先生方には温かく保育をしてくれて、感謝する。

・コロナ禍で対策等大変ななかで子どもたちを見守ってくれて、本当に感謝している。コロナ前に比べ行事が出来なくなり幼稚園の様子を見ることは少なくなったが、その分たまに見る運動会、劇遊び発表会での姿に成長を感じた。印象に残っているのは運動会のほがらか森で、みんなで歌やダンスをするのは嫌いな息子が笑顔でハチさんをしていたので見ている私も嬉しくなった。

・水、ドロ遊びはなかなか家でさせてあげることが出来ない分、園で友達と思いつ切り楽しめていた様子だった。

・一年間の感想は年少の時より挨拶を幼稚園以外でも恥ずかしながら出来る様になったこと、ルールや社会の常識を理解でき、守るようになったことが一年を通して、幼稚園生活で身についたなと感じている。また、劇遊び発表会や運動会などで日常保育以外の活動を通して、普段と違う様子が見られ、家で練習したり、お友達の様子を話してくれたり様々な経験をさせてもらえることに感謝している。来年は年長になるので一番上のお兄さんとして、年中さんと年少さんとの関わりでの成長を見られるのが楽しみだ。

・年少の頃はコロナの影響で出来なかった行事が少し増え、野毛山動物園や市電保存館などの園外活動は、とても喜んでいる。クラスのお友達も2年目で、年少の頃には決まった子としか遊んでいなかったが、色々なお友達と遊んだという話を嬉しそうに報告してくれるようになった。運動会と劇遊び発表会で覚えたダンスや歌は毎日家で踊っている。

・年少はまだ幼い感じが残っていたが年中になり、ぐぐっとお姉さんになったように思う。自分の意見を伝えること、意志を持つことができるようになった、印象だ。後半になって、うまくお友達とコミュニケーションがとれているのか不安になるところがあった。しかし先生がよく見て説明してくれて不安は少し解消した。ただ本人はうまく理解出来ていない点もあるようで、家でも継続して聞いて

ていこうと思う。思い出深いのは運動会の「ほがらか森」だ。年少の頃からまねっこして踊っていたものを、今度は自分たちでやることになり、かわいいちょうちよで、本人のテンションも上がり、良い演技が出来ていたと思う。感動した。

- ・幼稚園の色々なルールを覚えてきた。食事をきれいに、早く、全部食べるようになった。

## ○年少組

- ・最初の頃は初めてのお友達、園での生活に少し戸惑っている様子だったが、すぐに慣れて家に帰って来るとその日の出来事をたくさん教えてくれた。一度も「行きたくない」と言わず、幼稚園に行けたことに子どもの成長を感じた。

- ・入園当初から毎日泣き続け、初めての集団生活に戸惑う娘に寄り添ってくれて、少しずつ幼稚園生活を楽しく過ごせるようになった。三月生まれに加え頑固な性格もあり、やりたいこと、いやなことがはっきりしているため、親でも毎日苦戦する場面が多々あるので、お友達と仲良く出来るのか、皆で活動するとき輪に入れるのかなど心配になることが多くあった。しかし、運動会や劇遊び発表会で、皆と一緒にマイペースながらも活動する姿を見て、娘なりに頑張っていたんだな、皆と同じ時間を過ごせていたんだな、成長したなと心から思った。

- ・土日幼稚園に行きたがる程毎日楽しく通えていてほっとしている。入園前は0から2歳児用の10人程度の小規模保育園に通っていて、通い始めは「保育園怖い」と言うこともあったので、幼稚園もなじめるか最初は心配だった。工作や鉛筆の持ち方など、沢山のことを覚えてきて成長を感じている。

- ・この一年間、幼稚園を嫌がることもなく楽しく過ごせているようで安心した。人一倍敏感で人見知りな性格で言いたいことも言えなかったり、知らない人に話しかけられたりするだけで泣いていた娘がお友達に「遊ぼう！一緒にお弁当食べよう！」など自分から声をかけられるようになったりコミュニケーションがとれるようになったりしたこと、本当に嬉しく思う。また、園だよりや写真などで園での様子も分かるのでとても嬉しい。なかなか家では出来ないような遊びなどを通じてとても成長を感じられた一年だった。

- ・初めての幼稚園生活、沢山の友達や先生と楽しく園で過ごしている姿を見て、日々成長を感じている。子どもにとっても一つ一つが思い出だ。運動会が終わった後も年長組のほがらか森のカブト虫の踊りをお友達と一緒に真似てみたり、劇の歌を大きな声を出して私達に聞かせてくれたり、幼稚園で教えてもらった歌も沢山歌ってくれる。子どもの心を動かしてくれる教育をしてくれて有り難く思う。

- ・ブロックで遊ぶのが好きなようで、今日は何した？と聞くとブロックで〇〇作ったーと毎回同じ答えが返ってくる。お友達と一緒に何かをした報告がまだなので、うめ組になると色んな人と関わって上手に遊べたらよいなあと思う。

・一人でトイレに行けるようになってきた。言葉も色々と覚えてきた。歌も歌うようになっていく。順番待ちが出来るようになった。ご飯を食べるようになった。入園から色々育っている。

・入園当初は、まだ3歳なりたてで、意思疎通もうまくとれていなかったが、どんどん言葉が増えていき、先生の名前や、教育実習生の名前も覚えて、話をしてくれたりするようになり、成長していく日々感動している。本人は歌や踊りが大好きなので、幼稚園で習ってきた歌や、発表会で歌った歌を毎日のように家で歌っていて、その姿がとても微笑ましい。

・一昨年の11月に東京から横浜に引っ越してきた。東京では下の子が生まれたことや遊べる公園なども近くになく外部とのコミュニケーションも少なく心配していた。横浜では公園も多く子どもも沢山おり、なんと言ってもアソカ幼稚園内での子どもたち、先生方とのコミュニケーションによって様々なボキャブラリーや行動を学ぶことが出来た。まだまだ足りない部分もあるが、ゆっくり成長してくれればよいと思っている。妻が妊娠したので8月～11月までお休みをもらった。産後には、くじら組に参加して、新たにアソカ幼稚園の良いところを発見出来た。先生は直ぐに子どもたちや父母の名前と顔を覚えていたのがびっくりした。それと同時に共働きやシングルな家庭環境での育児も大変だなと気付かされた。子どもと私達親も一緒にこれからも成長出来たらと考えている。

・目覚ましい成長を遂げた一年だった。身の回りのこと(トイレ、更衣、お手洗い)を自分で行うようになってきたり、周囲の人に関心を持ったりするようになった。毎晩、寝る前にその日に幼稚園であったことを色々話してくれるが、先生もお友達も大好きなようで毎日を楽しんでいる。印象に残ったこと。お迎えの時に他の友達が転んで泣いていると「大変」と行ってダッシュで駆け寄り「痛い痛い飛んでけー」をしてあげていた。また、別の日は、お友達が竹馬で転んでしまったら、急いで先生を呼びに行っていた。優しい気持ちを持っているんだなあ…と、とても印象に残った。

・今まで家庭での生活がほとんどだったので、入園して先生方や友達と関わったり、運動会や劇遊び発表会など大勢の前で、友達と頑張っって一つのことをやり遂げたりしたことで、一回り成長したと感じている。また、自分の気持ちを話すことも上手になってきているなど思う。幼稚園であった出来事を話してくれることもあり、幼稚園の生活を楽しく過ごしているようで、親として嬉しい。

・幼稚園生活で印象に残っていることは、雨の日の朝、園庭に出来た水たまりで遊びたくて、クツを脱ごうとしない息子に「上で朝の支度をして、先生がいいと言ったら外で遊ぼうか」と下駄箱のところで先生に声をかけてもらったことだ。私はどうなるか気になったがお任せして帰った。その後、他の保護者から登園時、息子が雨の中外で遊んでいたと聞いたり、先生からも、その時の様子を聞いて

たりした。先生や園には息子の対応をしてくれ、とても有り難い気持ちだったが、どうして他の子と同じように出来ないのだろうと、もやもやしていた。それから、雨の日は多少遊ぶことはあっても、教室に行くようになったが、帰りは水たまりでバシャバシャ遊んだり、レインコートは着ないでタクシーに乗って、降園したりしていた。どうして息子は他の子が普通にやっていることが出来ないんだろうと思った。でも、2学期の途中から、少し遊ぶことはあってもレインコートを着て家まで帰ってこられるようになった。今思うとあの雨の日に先生が息子の気が済むように遊ぶことを選択してくれたので、少しお兄ちゃんになった息子がいるのかなと感じることがある。今でも息子はその時のことを「楽しかった」と言っている。私もあの頃は周りと比べてもやもやしていたが、息子の性格上、あの時、気が済むように対応してくれたことに感謝する。

・初めての幼稚園生活で緊張していた娘も先生たちのお陰で幼稚園に行くのが楽しみみたいで、毎日幼稚園での出来事を教えてくれる。お姉さんになっていく娘を見ていると本当に成長したなと思っている。

・保育園から幼稚園に移り不安もあったが、他学年のお友達とも遊びながら、遅く成長していると感じた。

・まだ朝泣いてしまうこともあるが、泣きながらも一人で保育室まで上がっていきける様になった。なかよしのお友達もできた様で、お迎えに行くと「幼稚園楽しかったー」と言っている。

・たんぽぽ組ですぐにお友達も出来て楽しく通えて良かったと思う。劇はオオカミ役がかっこいいと気に入っていて好きな役が出来て楽しんでいた。本番は歌えなかった所もあったが、少しずつ成長してきているなと思った。

・入園と同時に仕事を始めたこともあり、母子にとっては初めてだらけの一年だった。どんぐり組を経て入園したので、顔見知りのお友達もいるし楽しめるだろうと思っていたが、甘かった。グループのお友達と上手に話せないことに悩んだり親と離れる時間が長く寂しがったり、くじらの縦割りに戸惑い幼稚園に行きたくない泣かれた日もあり、壁にぶち当たった気がした。程なくして子どもの様子を先生方に聞くと泣いているお友達と楽しそうに過ごしている様子を聞き、とても安心した。今ではくじら組のお兄さんとお姉さんの名前もバッチリ覚えている。幼稚園で頑張っていることを知り、家でのわがままは受け入れほどほどに甘やかしてあげている。そして楽しかった園の記憶を元に踊ったり歌ったりした曲を子どもから教えてもらって家族で楽しんでいる。入園してから踊ること、歌うことを学んだ運動会も劇遊び発表会も堂々としていて、我が子のことながらすごいなあと感心した。一人っ子なのでお友達との関わり方を心配していたが、嫌なことははっきりと言えたり、手紙を交換したりカラフルな絵が描けるようになったり、「今日は〇〇ちゃんと遊んだよ」と楽しそうに報告してくれ

て、沢山の経験値を積んで逞しく育ってくれていると感じる。集団で生活するってとても刺激的だな。小さな悩み事でも親身になって聞いてくれたり、時には笑い飛ばしてくれる先生方のお陰で、親子共々安心してお任せ出来る。

・この一年間で集団生活、社会性、人との接し方について、とても上達した。最初の頃は自分の思いがうまく伝えられず、お友達に手を出してしまうことが多かったが、最近はやっていいこととだめなことの分別がついてきたのか、そのようなことも少なくなってきたと感じている。幼稚園にも嫌がることなく毎朝楽しそうに出かけていき帰ってくると幼稚園での出来事も自分から言うようになったしお友達や先生の話もする。途中から連絡アプリが導入されたが、手軽に幼稚園に連絡を入れることができ、情報も入ってくるのでとても便利だった。また、英語表記にも変換されるためとても助かっている。また、毎日の様子がFacebookで確認できたり、終業式の様子がYouTubeで見られたり、今時のツールを使って配信してくれるのもとても良いと思う。

・4月の入園後は私から離れられずに泣いていたが、いつの間にか「幼稚園楽しかった」と言って帰って来るようになり、成長を感じた。参観がなく幼稚園での様子が気になったが、みずほ先生が小さな変化にも気がついてくれるので、安心して通わせることが出来た。運動会・遠足・劇遊び発表会、小さな体で一生懸命頑張っている姿がとっても可愛くて感動した。くじら組でも楽しい遊びをたくさんしていて、おやつもたくさん食べたよ、いつも笑顔で帰ってきてくれるので安心して預けることが出来た。

・極端に人見知りだった子が本当にゆっくりだがお友達と一緒に遊べるようになり入園させて良かったと思っている。

・プレ幼稚園の際に我が子は、歌や踊りの時いつも走り回ったり、教室から出て行ってしまったりしていた。年少さんになって団体行動をしたり、皆と列に並んで発表が出来たりしていることに感動した。また、教えたことのない歌を口ずさみ、「それ、何」と聞くと「幼稚園で歌ったよ」と答えてくれた。いつも色々なことを吸収しているんだなと感じている。最初は誰と遊んでいたのかの問いに「うーん〇〇くん」としか答えなかったのに、今は色々な友達の名前や園での詳細を話してくれる。先週晩ご飯の時いつものように「いただきます」をしようとしたら「いのちに感謝していただきます」と恥ずかしそうに言っていて、とても可愛いと思った。

・通い始めの頃は、泣いて行きたくない様子を見せていたが、夏休みになると園の鞆を出して帽子をかぶり、もう幼稚園に行きたくなっていた。園で何をしたのか全く話さない娘だが、ラジオ体操や三匹のこぶたの演劇等は、家でも沢山歌って踊ってくれた。たまに、先生ごっこを一人で楽しそうに、朝の出席の名前確認では、お友達の名前をフルネームで覚えていて先生のまねっこをしている。ま

だ、トイレには一人で行けないが、少しずつ体の成長と共に時間をおいてトイレに行ってできるようになってきている。相変わらずコミュニケーションはうまくいかないが、少しずつ話すことも増え、答えられなかった質問にも答えられるようになってきている。

・年少さんでは気持ちの問題やほとんど参加出来なかった運動会や発表会に元氣いっぱい笑顔で参加出来るようになっただけでも充分驚き感動した。さらに、時々見られる「なぜ、そんなことを」という行動や発言が、「全てのいのちを大切に」という園の教えを自分なりに考え、実践しているのだと分かり一年でこんなにも成長するのかとさらに驚かされた。まだまだ様々な制限がつくなか、先生方が子どもの内面を大きく成長させ、出来ることを増やしてくれたのだと思う。

・コロナ禍で長く幼稚園をお休みしていたが、幼稚園に通ってから息子の成長を感じるが増えた。まずは先生やお友達との関わりだ。プレ幼稚園の頃は教室に入っても一人で遊ぶことが多く年少に上がった時に集団生活が出来るか心配していた。しかし、思いと裏腹にお友達と何をして遊んだのか、嬉しかったこと、幼稚園での出来事を話してくれる。話も4月の頃に比べて流暢になったなど感じている。次に社会性が身に付いたなど思う。先生の話聞くこと、お友達の気持ちを受け入れること、まだまだうまくいかないこともあるかと思うが、親から見ると成長を感じる。また、運動会や劇遊び発表会を通してお友達と協力しあっている姿を見て感動した。子どもたち一人ひとりが楽しいんだなという思いが伝わってきた。

・プレも経験なかったもので、親から離れるのは入園後が生まれて初めてだったが親よりも子の方があっという間に順応したように思う。特に9月からは母親の育休が終了し、家庭内の状況も大きく変化したが、親の心配をよそに、直ぐに彼なりに理解してくれた。コロナで登園自粛していたことも我が家にとってはタイミングが良かったかもしれない。懸念していたトイレトレーニングも入園後あっという間に進んだ。家での練習は乗り気でなかった息子も園での生活のなかで、どんどん習慣がついていったように思う。家でも先生やお友達のことを話してくれることが日に日に増えてきた。先生にこんなことをしてもらえた、誰々とあんなことをした、と色々な人の名前を出して詳しく説明をするので、園の様子がよく分かる。日々人間関係を学んでいること、また言語能力の発達に驚かされることが多い。たんぽぽ通信では息子が話してくれない部分の園の様子を知ることが出来て、毎週楽しく拝見している。仲の良い友達も出来て最近では降園後も子ども同士で勝手に約束して遊ぶようになった。

・この一年もコロナ禍のなか、楽しく安全に日々を過ごすことが出来て感謝している。幼稚園が大好きなので、家ではよく「明日幼稚園」と確認してくる。お休みと言うとがっかりし、幼稚園だと言うと「ヨッシャー」と喜んでいる。一年の

行事のなかで一番成長を感じたのは、劇遊び発表会だ。普段は皆に注目されると恥ずかしがる息子が、役になりきって全力でやり切る姿に「こんなに真剣にやる子だったのか」と意外な一面を見ることができた。来年はどんな姿を見せてくれるのか楽しみだ。

・全力で子どもに向き合ってくれている担任とサポートをしっかりとしてくれる先生方に本当に感謝する。家では暴れん坊なのに外では何もできないと思っていたが、歌もダンスもしっかり頑張っていることができた。日常生活姿もまた見られる時が来ると嬉しい。

・どんぐりクラスの時是最後まで母親と離れられなかった娘が、今では「幼稚園行きたい」「～ちゃんと今日は遊んだ。明日も遊びたい。」「みずほ先生に会いたい」と毎日のように言い、幼稚園生活を楽しんでいること、それがこの一年間での何よりの成長だと感じている。恥ずかしがり屋で自己主張がなかなかうまく出来ない娘に様々なアプローチで寄り添ってくれた先生方のお陰だ。一年間で一番印象に残っているのは運動会だ。

運動会前はコロナ感染が拡大しており、幼稚園の登園を控えた。ただコロナの不安がありながらも初めての運動会に参加させてあげたい気持ち、幼稚園に行きたいという娘の想いに応えてあげたい気持ちなどもありみずほ先生に相談し、グランド練習(3日間)だけ参加した。たった3回だけの練習でダンスの振りなども覚えられないままの本番となったが本番ではクラスのお友達とともに楽しそうなキラキラした笑顔で一生懸命の振りを見ながら踊る娘の姿を見ることができ本当に感動した。

・休日以外はほとんどを幼稚園で過ごしているが、本人はとても楽しいようで、寝る前に「今日も楽しかった」とよく言う。早生まれながら体は大きい方だと思うが、お兄さんお姉さんとうまく過ごせるか、少し心配だったがその心配はいらぬようだ。

## ○どんぐり組

・多くのお友達と遊ぶ機会があまりなかったので、良い経験になった。最初はなじみずくにいた娘だが、楽しそうにしているところを見て、どんぐりクラスに入れて良かったと思っている。歌と踊りが好きなので、発表会は楽しかったみたいで家でもよくやっていて、良い思い出になった。

・周りと比べて少し遅いかなと思っていたが、幼稚園に行くたびに沢山の言葉が出るようになった。週に1回違う本を借りられるので、元々本は好きだったが自ら開いて読むなど、益々絵本が好きになった。トイレもいやいやがひどい時期に順調に進んでいたのがストップしてトイレに行くのもだめな時期があったがみんな幼稚園ですることによってやる気も出たのかスムーズにトイレも行けるようになった。遠足はみんなで沢山歩いたり走ったり、終始楽しそうでこちらも嬉しくな

った。母子分離が始まったくらいから着替えや荷物など自分のことは自分でやるという意識が強くなり、自立してきたなあと感じた。どんぐり発表会では5月から比べたら思いもよらないくらい、色々なことが出来る様になったなあと感じた。歌やダンスが大好きになった。運動会もどんぐり組だけで、開催し、かけっこしたり玉入れしたり、いつもと違う広いグラウンドで思い切り走れて楽しそうだった。

・自己主張が強く、我が道を突き進んでいた娘がどんぐりクラスでの生活を通して他者との関わりを学び成長したと思う。話を聞き相手のことを考え行動する様子が見受けられる様になった。どんぐりクラスの出来事を楽しそうに話し、登園を心待ちにしている姿を嬉しく感じている。

・山頂公園の遠足で初めて木曜日クラスのお友達と会うことができ、本人は少し緊張していたようだが、とっても楽しく過ごすことが出来た様だ。山頂公園に行く度に「ここ先生と〇〇した所」等と教えてくれるほど印象に残った出来事の様だ。久々の登園、初めての運動会ということで、とても楽しみと緊張で望んだ行事だった。コロナ対策をきちんと行ってくれていたのが安心して参加出来た。何種目かの競技に参加することが出来てとても楽しんでいた。本人は「お父さんが忘れ物をする歌」がとってもお気に入りだったようだ。発表会では、とても元気に楽しく踊っている姿を見ることができて、両親共々感動した。本人も数日前から楽しみにしており、家で歌ったり踊ったりしていた。きちんと組まれたカリキュラム、優しい先生方で、とても充実した一年だった。本人もいきなり入園して週五日通うより、かなりストレスや緊張も減ったことと思う。

・兄が幼稚園に通っているため、前からなじみもあり、すんなりと通うことが出来た。本人もどんぐりさんがいない日も聞いてくるなど、楽しみにしていた。母子分離もスムーズで楽しく通うことが出来入園後も楽しみだ。

・どうしてもいつも兄に合わせてしまうことが多いので、どんぐりでお友達と出会い、色々なことをして、とても楽しんでいたのが安心した。入園前にどんぐりに入れて本当に良かった。先生方が皆優しいので母子分離の時も安心して預けられたので入園も楽しみだ。

・お散歩で通う度「行きたい！行きたい！」と立ち止まっていた幼稚園に通うことが出来、今でも週1のどんぐり組を楽しみにしている。毎日寝る前に今日どこに行ったか、明日はどこに行きたいか、など会話をすると最初の頃は「明日幼稚園に行く」の返答が多かった。火曜日以外で通っている子どもたちを見ると「幼稚園やっている。いきたい。何で行けないの」と不服そうだったのが、今では4月から通えることを理解し「優しいお姉さんになる。」と張り切っている。発表会で生き生き元気に踊っている姿や、誕生会で緊張した姿、また家族の誕生日に「キラキラ誕生日」と歌ってくれたり一年間での成長は幼稚園に入ってから



すごく感じる。私にはとても印象深い「お手洗いのキリン」さんだ。4月からトイレトレーニングを始めていたが、園のお手洗いのキリンさんを見てからは、「ママ、トイレにキリンさんいたね。」「すごいね。」と大喜び。家に帰ってから「ママトイレにキリンさん作って」とリクエスト。それからはスムーズにトレーニングを進めることができ、キリン様には大感謝だ。また、それまで絵本を読んでも途中でどこかにいったり、話しかけてきて先へ進めなかったりしていたが、先生が絵本を読み聞かせしてくれたので、「聞く力」がついたと感じる。

・初めての集団生活で不安な部分も沢山あったが、コロナ禍にも関わらず沢山の行事を開催してくれて一年間で沢山の成長が見られて先生方には感謝する。初めてのお友達も出来て週1回の幼稚園を本当に楽しみにしている。来年度いよいよ入園だが、これからどんな成長を見せてくれるのか楽しみだ。

・一年間で新しいお友達が出来てトイレに行けるようになり順番ということを学んだみたいだ。お友達とプール遊びをすることがなかなか出来なかったのが、幼稚園で体験出来て良かった。絵の具や工作など家で出来ない経験をして毎週幼稚園を楽しみにしているようでそれが一番良かった。

・始めの頃は場所見知りとお友達見知りやひどく母子分離ができるか不安だったが、先生たちがお兄ちゃんの所に連れて行ってくれたり、幼稚園の子どもたちが一緒に遊んでくれたりと、安心したのか意外とスムーズに離れることが出来て驚いた。家以外ではずっと私の足下にまわりついておとなしい子だと思っていたが、迎えに行った時に先生の話で友達とふざけたり家で見せるようなお調子者で、どんぐり組を楽しんでいると聞き、とても嬉しかった。「ほがらか森」を見せてもらった後、ちょうちょのダンスと衣装がとても気に入ったようで、家でずっと歌って踊っていた。

・どんぐりクラスに行く度に一つ成長して帰ってきているように見える。発表会では恥ずかしがりながらも一つずつしっかり踊っていて、こんな風にどんぐりでも過ごしているのかなと思った。

・もう一年かという感じである。子どもの成長を沢山実感できた一年だった。お友達同士の関わり方を少しずつ覚えて今よりもっと本人が楽しいと思えば、春からの園生活が送れるように親はただ見守るばかりだ。

・始めの頃は泣くことも多く心配していたが、先生方がいつも優しく温かく見守ってくれるお陰で不安もなくなり、安心して通わせることが出来た。娘も幼稚園が大好きになり、毎週とても楽しみに通える。家では幼稚園で覚えたことをやったり、話したり、本当にたくさんの成長を感じられた。

・1年前、お友達とすぐけんかになり、物の取り合いで手が出ていたが、今は物々交換をすることを覚え、「これ、いい」と確認す姿も見える。けんかになっても手を出すことはなくなってきた。母子分離がまだまだ出来ず、ずっと付き

添いをしているが、最初の「ママ ママ」とひっついていた頃に比べて明らかに友達と遊ぶ方が楽しいと感じるようで、降園など外でも、お友達とよく遊ぶようになった。夏の水遊びや絵の具遊び、ドロ遊びなど、季節ごとのイベントを含め、家では体験させてあげられないような遊びを園で取り組んでくれるので、それは刺激的なのか子どもたちが大興奮していた様子が印象的だった。発表会では、沢山の客さんが注目しているなか、この世に生まれてまだ2、3年しか経っていない小さな子どもたちが、名前を呼ばれて「はい」と堂々と舞台上がり、覚え立てのダンスを体一杯に踊っている姿はりりしいような…。なんだか胸にぐっとくるものがあった。

・どんぐり組初日、泣いて教室に入ることができず、集合写真を撮れなくて寂しくなったことを思い出す。それが今では「早く幼稚園行こうー」と毎週楽しみに通っている。生まれて初めて親と離れて生活し未だに少し泣いているようだが、今後のために良い経験になった。